

# 西宮市通所サービス連絡会通信

蔵田幹事

満永氏

藤野会長



ケアマネ協会、新会長！

満永ケアマネジャーに  
お話を伺いました。



通所サービス連絡会から  
質問を募集し答えていただきました。

## 「利用者が心地よいと思える通所を。」

### 「様々な介護サービスがある中で通所を紹介しようと思う基準は？」

通所サービスには閉じこもり防止や気分転換、入浴、食事等一石何鳥にもなる。家でできないことや役割を与えてくれたり、見守りがある中で食事作りを一緒にしたり、利用者の居場所となるのは通所サービスの良いところだと思います。

### 「ケアマネにとって紹介しやすい事業所とは？」

私たちのサービス選択の基準は利用者がそのデイを利用し「楽しいか、心地よいか」この一点です。デイで過ごす時間が「自分らしく振舞うことができる、安心できる居場所であるか」を考えていただきたいです。

事業所のコンセプトと連絡体制がしっかりしている事業所は紹介しやすいです。ハード面も大切ですが、事業所の顔となる相談員の対応は重要だと思います。何かお願いしたときに「できません」と切り捨てるのではなく、無茶振りに対して代替案を出してくれる事業所は優先して案内しますね。他にも事業所で働く姿や、言葉遣い、介助スキル、笑顔も大事です。なれなれしくなく、かたくるしくもなく、懇切丁寧、誠意をもって対応する職員の対応や職員間のやりとり、雰囲気なども見えています。

法人内や事業所内での情報交換は日々行っていますね。他のケアマネの口コミや成功体験(例えば入浴拒否のある認知症の方が入浴したデイなど)、送迎時間の融通がきくデイや行事・習い事が充実したところ、ケースを通して好感触を得たデイは事業所内で情報交換しています。

利用者宅にパンフレットをコピーして持参することが多いので、A4などのコピーしやすいサイズのものがありがたいです。事業所の特徴など、わかりやすい情報が端的に載っていて、利用者が過ごしている様子が写真として記載されているものは魅力的ですね。

### 「コロナ禍の前後で利用者ニーズの変化はありましたか？」

密になるスペースで営業されている事業所は控えようという意識はあったと思います。利用できずに入浴が困るケースは多数ありました。コロナ陽性者が出たところは、しばらく様子をみて今は控えておこうといった考えは正直今もありますね…。

### 「ICTの活用は進んでいますか？」

進んでいない。進めたいが、たくさんあるので何かに統一しないと難しいのではないかな。西宮市の方でも進めてほしいと思っている。

### 「デイサービスとデイケアの使い分けについて教えてください」

医療的な管理があった方が安心と判断した方、急性期や回復期、その他医師の指示が必要な病状についてはデイケアを選択します。デイケアはPT・ST・OTが揃っており、難病や後遺症のある方でも安心して勤められる反面、加算や単位数が多く、料金が高くなってしまうデメリットがありますかね。デイは、長くりハビリを続けたい方や、環境変化が苦手な高齢者へメリットがありますね。診療情報提供が不要なデイは、利用者側の手間と費用においても魅力的です。

### 「実績報告時や近況報告時、お願いしたいことはありますか？」

実績で困ることは字が汚くて読めないことですかね(笑)個人的には実績報告は早く入力したいので持参よりFAXにしてほしいです。実績で欠席のところは空白ではなく×を記入してもらえたらわかりやすいですね。報告書や計画書をホッチキス止めて持参する事業所も困る。FAXでモニタリング報告など送っていただくが、毎日書類が大量に届くので、重要なものには重要と書くなどの、アピールをしてほしい。それが電話で伝えてもらいたい。悪いことだけではなく、良いことも報告をいただけたら嬉しいです。

デイでの過ごし方など、利用者・家族へ相談する際に、事前にこちらへ報告いただけると、利用者・家族より問い合わせがあった場合に対応が出来ると思います。事業所・利用者・家族それぞれの事情があると思うので、折り合いがつくように、共に考えることが自分たちの仕事でもあると思っています。

### 「通所サービスへ期待することは？」

もし自分だったら？自分の大切な人だったら？ということを考えながらサービスをしてほしいと思っています。

当たり前に人間として扱われること、個人として扱われること、つまり尊厳について考えてくれる事業所。その人の望むことを、共に聞き、出来ることを私たちと共に考えてくれる事業所。能動的に役割を与えてくれる事業所。受動的に楽しませてくれる事業所。様々な行事・習い事をより選択できる事業所が市内にたくさんあったら嬉しいです。

小松居宅の満永様、お時間いただきありがとうございます。

この取材は5月25日に行いました。

インタビュー：藤野・蔵田・宮武・下江 (2022/6/20) Vol.2